

病害虫発生予報

第4号(7月予報)

令和5年6月28日

岐阜県病害虫防除所

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	7月予報	
			発生時期	発生量
水稲	葉いもち	栽培地域全域	平年並	やや多
	紋枯病	栽培地域全域	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ	栽培地域全域	平年並	多
	縞葉枯病	栽培地域全域	平年並	少
	セジロウンカ	栽培地域全域	平年並	平年並
	斑点米カメムシ類	栽培地域全域	やや早～ 平年並	平年並
かき	ハマキムシ類	栽培地域全域	平年並	やや多
なし	黒星病	栽培地域全域	—	やや多～多
	ナシヒメシクイ	中濃地域	やや遅	平年並
もも	ナシヒメシクイ	飛騨地域	やや早	平年並
果樹類	果樹カメムシ類	栽培地域全域	—	やや多
茶	ハマキムシ類	岐阜・西濃地域	平年並	やや多
	チャノホソガ	岐阜・西濃地域	平年並	平年並
夏秋トマト	灰色かび病	中濃、東濃、飛騨地域	平年並	平年並
野菜一般	アザミウマ類	栽培地域全域	—	平年並

※発生時期の—は連続発生

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）

<https://pesticide.maff.go.jp/>

【発生予報・根拠・注意事項等】

I 普通作物

1 水稲

葉いもち	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並（7月第4半旬頃）	やや多

- (1) 予報の根拠（発生量が多くなる要因を（+）、少くなる要因を（-）で表記）
- ア 水稲の生育は、平年並（±）である。
 - イ 高精度発生予察速報（BLASTAMによるいもち病情報）によると、6月第2半旬以降、感染好適日が確認されている（+）。
 - ウ 調査ほ場において、東濃、飛騨地域で苗いもちの発生が認められている（+）。
 - エ 向こう1ヶ月（6/24～7/23）の気象予報によれば、気温は高く、降水量は平年並（±）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 補植用置苗はただちに除去し、早期発見、早期防除に努める。
 - イ 今後の高精度発生予察速報（BLASTAMによるいもち病情報）に注意する。

ウ いもち病に効果がある箱施薬剤または粒剤を使用していない場合は、本田での発生に注意し、防除に努める。

※ 病害虫図鑑「水稻 いもち病について」もあわせて参考にしてください。

紋枯病	対象地域	発生時期 <初発生>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (7月第2～第3半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

ア 水稻の生育は、平年並(±)である。

イ 前年の発生面積は、岐阜・西濃で多く(+)、中濃、飛騨地域でやや少～少なく(-)、東濃地域は平年並(±)であった。

ウ 向こう1ヶ月(6/24～7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 上位葉進展阻止を目標に、幼穂形成期を中心に防除する。

※ 病害虫図鑑「水稻 紋枯病について」もあわせて参考にしてください。

ヒメトビウンカ	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (7月第1半旬頃)	多

縞葉枯病	対象地域	発生時期<最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (7月第4半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

ア 予察灯によるヒメトビウンカ第1世代成虫の誘殺最盛期は、中濃地域で6月第2半旬に認められた。

イ 予察灯によるヒメトビウンカの誘殺数は、多かった(+)

ウ 本田におけるヒメトビウンカの発生量は、岐阜・西濃地域で少なく(-)、中濃地域で多かった(+)

エ 前年のヒメトビウンカの縞葉枯ウイルス保毒虫率は、低かった(-)

オ 縞葉枯病抵抗性のハツシモ岐阜SLへ切替えが行われた(-)

カ 向こう1ヶ月(6/24～7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 感受性品種について、箱施薬を行わなかった場合は、第2世代幼虫の防除を実施する。

※ 病害虫図鑑「水稻 ヒメトビウンカと縞葉枯病について」もあわせて参考にしてください。

セジロウンカ	対象地域	発生時期<幼虫発生最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (7月第4半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

ア 予察灯への初飛来は、岐阜・西濃地域で早く(+)、中濃、東濃、飛騨地域では認められていない(-)

イ ほ場での発生は、認められていない(-)

ウ 向こう1ヶ月(6/24～7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 海外飛来性害虫のため、今後の発生予察情報に注意する。

※ 病害虫図鑑「水稻 セジロウンカ・トビイロウンカについて」もあわせて参考にしてください。

斑点米カメムシ類	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	やや早～平年並 (7月第5半旬～8月第1半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

ア 予察灯によるカスミカメ類の誘殺数は、アカスジカスミカメは岐阜・西濃、東濃、飛騨地域で少なく(-)、中濃地域で多かった(+)。アカヒゲホソミドリカスミカメは岐阜・西濃、中濃地域でやや多～多く(+)、東濃、飛騨地域で少なかった(-)。

イ 向こう1ヶ月(6/24~7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 出穂10日前までに畦畔の雑草地等における除草を徹底し、特にイネ科雑草は出穂させないように管理する。

イ 散布剤による防除は、穂揃期およびその7~10日後の2回を基本とするが、カスミカメ類が優占する地域では出穂期~穂揃期に実施する。

ウ 粒剤による防除では出穂期の7~10日後を基本とする。

※病害虫図鑑「水稻 斑点米カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

II 果樹等作物

1 かき

ハマキムシ類	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並(7月第2半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺最盛期は、認められていない。

イ フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数は、多かった(+)

ウ 向こう1ヶ月(6/24~7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫発生初期に防除を実施する。

※病害虫図鑑「かき ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 なし

黒星病	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多~多

(1) 予報の根拠

ア 発病果率は、岐阜・西濃地域で高かった(+)

イ 発病葉率は、岐阜・西濃地域で低く(-)、中濃地域で高かった(+)

ウ 向こう1ヶ月(6/24~7/23)の気象予報によれば、気温は高く(-)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 発病部位は、伝染源となるため早めに切り取り処分する。

※病害虫図鑑「なし 黒星病について」もあわせて参考にしてください。

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	中濃地域	やや遅(7月第1半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺最盛期は、やや遅かった(-)

イ フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数は、やや少なかった(-)

ウ 向こう1ヶ月(6/24~7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫発生初期に防除を実施する。

※病害虫図鑑「なし ナシヒメシンクイについて」もあわせて参考にしてください。

3 もも

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	飛騨地域	やや早(7月第1半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップによる誘殺数は、飛騨地域で平年並(±)であった。
- イ 芯折れ被害は、調査ほ場で認められていない(-)。
- ウ 向こう1ヶ月(6/24~7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 交信攪乱剤が設置されていないほ場では、発生に注意する。

4 果樹類

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯による成虫誘殺数は、岐阜・西濃、東濃地域でやや少~少なく(-)、中濃地域で多く(+)
飛騨地域で平年並(±)であった。
- イ フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は、岐阜・西濃地域で平年並(±)、中濃、東濃地域で少なく(-)、飛騨地域で多かった(+)
- ウ 向こう1ヶ月(6/24~7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 気温、湿度が高く風の弱い夜間に飛来が多くなるので注意する。
※病害虫図鑑「果樹カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

5 茶

ハマキムシ類	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	岐阜・西濃地域	平年並(7月第2半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯による誘殺数は、チャハマキ、コカクモンハマキともに多かった(+)
- イ フェロモントラップによる誘殺数は、チャハマキは多く(+)、コカクモンハマキはやや少なかった(-)
- ウ 巻葉被害は、平年並(±)であった。
- エ 向こう1ヶ月(6/24~7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫が葉をつづりあわせると、薬液がかかりにくくなるため、ふ化期~若齢幼虫期に防除を実施する。
※ 病害虫図鑑「茶 ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

チャノホソガ	対象地域	発生時期<第2世代成虫発生最盛期>	発生量
	岐阜・西濃地域	平年並(7月第2半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数は、平年並(±)であった。
- イ 第2世代幼虫による巻葉は、少なかった(-)
- ウ 向こう1ヶ月(6/24~7/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並(±)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発生最盛期が開葉期と重なると被害が大きくなるので注意する。
※ 病害虫図鑑「茶 チャノホソガについて」もあわせて参考にしてください。

Ⅲ 野菜

1 夏秋トマト

灰色かび病	対象地域	発生時期<発生最盛期>	発生量
	中濃、東濃、飛騨地域	平年並（7月第4半旬頃）	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 発病果の初発生は、認められていない（－）。
- イ 発病株率は、中濃地域で低く（－）、東濃地域で高かった（＋）。
- ウ ゴーストスポットの発生果率は、東濃地域で高かった（＋）。
- エ 調査ほ場において、飛騨地域では発生源となる葉先枯れ症の発生が認められている（＋）。
- オ 向こう1ヶ月（6/24～7/23）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤耐性がつきやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
※ 病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」もあわせて参考にしてください。

2 野菜一般

アザミウマ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

- ア ナスほ場での発生量は、岐阜・西濃地域で少なく（－）、中濃地域で平年並（±）、東濃地域が多かった（＋）。
- イ トマトほ場では、飛騨地域で白ぶくれ果の発生が認められている（＋）。
- ウ 向こう1ヶ月（6/24～7/23）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は平年並（±）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発生初期の防除に重点をおく。
- イ 施設栽培では残渣処理(蒸し込み)を徹底して、他品目への分散を防止する。
- ウ 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。
※ 病害虫図鑑「キュウリ ミナミキイロアザミウマについて」もあわせて参考にしてください。

[参考資料1]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）－名古屋地方気象台 令和5年6月22日発表－
《予想される向こう1カ月の天候（6月24日から7月23日）》

- ・平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・平均気温は、高い確率60％です。降水量は、多い確率40％です。日照時間は、少ない確率40％です。
- ・週別の気温は、1週目は、高い確率70％です。2週目は、高い確率50％です。3～4週目は、高い確率40％です。

[向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各等級の確率（％）]

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	10	30	60
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

[気温経過の各階級の確率（％）]

	低い	平年並	高い
(1週目) 6/24～6/30	10	20	70
(2週目) 7/1～7/7	20	30	50
(3～4週目) 7/8～7/21	30	30	40

[参考資料2] 【6月の調査における病害虫発生量】

作物名	病害虫名	調査ほ場での発生量：6月			
		岐阜・西濃地域	中濃地域	東濃地域	飛騨地域
水稲	葉いもち	少	少	やや少	やや少
	ヒメトビウンカ	多	多	—	—
	斑点米カメムシ類	平年並	多	少	少
	ニカメイガ	少	少	少	少
かき	カキノヘタムシガ	少	—	—	—
	ハマキムシ類	やや多	やや多	—	—
なし	黒星病	やや少	多	—	—
	ナシヒメシンクイ	—	やや少	—	—
もも	せん孔細菌病	—	—	—	平年並
	ナシヒメシンクイ	—	—	—	平年並
果樹類	果樹カメムシ類	やや少	多	少	やや多
茶	ハマキムシ類	やや多	—	—	—
	チャノホソガ	並	—	—	—
夏秋トマト	灰色かび病	—	少	多	少
野菜一般	アブラムシ類	やや少	やや多	平年並	やや少
	コナガ	少	少	—	平年並
	アザミウマ類	少	平年並	やや多	平年並

※調査地点はほ場、予察灯、フェロモントラップ等

[参考資料3]

《用語の基準と使用法》

- 1 半旬 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。
- 2 時期 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
 やや早い 平年値より3～5日早い。
 やや遅い 平年値より3～5日遅い。
 早い 平年値より6日以上早い。
 遅い 平年値より6日以上遅い。
- 3 発生量 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。
 やや多い 平年値より、その値が21～40%多い。
 やや少ない 平年値より、その値が21～40%少ない。
 多い 平年値より、その値が41%以上多い。
 少ない 平年値より、その値が41%以上少ない。
- 4 平年値 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。

病害虫防除所ホームページに、病害虫発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病害虫の防除上の注意事項等については、「病害虫図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>

6月～8月は、令和5年度農薬危害防止運動の実施期間です。農薬及びその取扱いに関する正しい知識を広く普及するとともに、農薬の適正販売、安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を徹底し、農薬による事故等を未然に防止しましょう。